

## 古代山城で初調査 水門に伴う土手状遺構

きのじょう  
鬼ノ城

総社市奥坂

今年度で5年目となった「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業では、鬼ノ城（国指定史跡 きのじょうざん 鬼城山）の第5水門周辺（C1区）と北門周辺（C2～4区）で発掘調査を実施しました。

**C1区** 第5水門の周辺では、土手状遺構（以下、土手）の調査を実施しました。土手は谷筋をふさぐように南北両側から張り出して残っています。平成11年度に南側の土手を調査し、前面に石垣と敷石をもつことが明らかになっていました。今回、北側の土手を調査したところ、土手の前面は石垣二段の階段状で、石垣の間の平坦面に敷石を設置する構造であると判明しました。土手の背面には一段の石垣を築き、盛土部分は土を薄く重ねて盛る方法で造成していました。盛土の特徴や石垣と敷石を用いる特徴が城壁と共通することから、土手は鬼ノ城の築城時に築かれた可能性が高く、第5水門に多量の水が流れ込むのを防ぎ、城内に必要な水を溜めるダムのような役割を果たすものと推測しています。



土手状遺構の全景（北東から）



C2～4区 北門の内側では、北門に関連する施設ないし北門からの通路などを想定して調査区を設定しました。

C2区では地形を改変した平坦面を確認しましたが、小規模かつ部分的であることから北門から続く通路とは考えにくいと判断しました。ここでは桁行約3.6m、梁行約2.5mの掘立柱建物1棟が検出でき、平坦面は建物の建築に伴う造成の可能性が考えられます。掘立柱建物は鬼ノ城で2棟目になります。建物からは遺物が出土していないため詳しい時期は不明です。また、平安時代以降の被熱土壌3基も見つかりました。被熱土壌は内部で火を焚いた穴ですが、その性格はよくわかっていません。

北門に最も近い位置に設定したC4区でも被熱土壌1基などを検出しましたが、北門に関連する施設は見つかりませんでした。

これらの調査区では遺構に伴う遺物はほとんどありませんが、包含層から飛鳥時代～平安時代の須恵器・土師器片が少量出土しており、注目されます。

今年度の調査では、今まで古代山城では調査例がなかった水門に伴う土手の構造やその性格を明らかにできました。全国で初めての調査ということで、非常に意義深い成果になったと考えています。また、北門の内部では通路は見つかりませんでした。城内2棟目となる掘立柱建物が見つかりました。こちらも城内利用のあり方を考える上で重要な調査成果です。

開催イベント 調査期間中には下記のようなイベントを開催し、大勢の方々に御参加いただきました。参加して下さった皆様、どうもありがとうございました。(上梓 武)

イベント名	開催日	参加者
夏休み少年少女鬼ノ城教室	7月24日(土)	25名
謎の鬼ノ城 城内調査大公開Ⅰ	9月6日(月)～12日(日)	450名
鬼ノ城フォーラム	9月25日(土)	200名
総社市阿曾小学校体験授業	10月22日(金)	26名
謎の鬼ノ城 城内調査大公開Ⅱ	12月1日(水)～7日(火)	300名

開催イベントと参加人数



C1区 土手状遺構の盛土(北東から)



C2区 掘立柱建物(東から)



白熱した討論(鬼ノ城フォーラム)

## および 及遺跡 勝田郡勝央町黒土

山陽自動車道と中国自動車道を南北に結ぶ美作岡山道路の建設に伴い、計画路線内にある遺跡の発掘調査を行っています。及遺跡では調査の結果、弥生時代中期から古墳時代後期の川跡や鎌倉時代の粘土採掘坑(粘土を採るために掘られた穴)群などが発見されました。

弥生時代中期の川からは、北側丘陵にあった集落で使用されたと思われる壺や甕、高杯、器台などの多量の土器や石包丁、石斧といった石器が出土しています。また、この川からは、杭と板材を使った護岸施設も見つかっています。

鎌倉時代の粘土採掘坑は、計170基以上確認されています。平面形は、円形や楕円形が多く直径1.5～3mを測り、人が1、2人で作業するのに適した大きさをしています。深さは60～80cmですが、中には1m以上にもなる深いものもあります。いくつかの採掘坑には粘土層まで掘った後、さらに横を抉って粘土を採った痕跡が見られました。当時の人々が、少しでも多くの粘土を得ようとしたことが推測されます。

さて、勝田郡勝央地域では平安時代末から鎌倉時代にかけて勝間田焼という焼き物が生産され、及遺跡周辺の丘陵では約40基の窯跡が知られています。及遺跡の粘土採掘坑からも、勝間田焼の椀や鉢、瓦質の羽釜が完形かそれに近い形で出土しています。これらのことから、採掘された粘土は勝間田焼や瓦質土器の原材料として用いられたと考えられます。

勝間田焼の生産は、備前焼とほぼ同じ時期に始まりました。備前焼は全国各地に流通し、現在も操業が続いています。一方、勝間田焼は13世紀代に徐々に衰退し姿を消してしまいます。そのため、備前焼に比べ勝間田焼の実態はあまりよく分かっていません。今回の広範囲にわたる粘土採掘坑群の発見は、勝間田焼生産の様相を解明していくうえで貴重な発見と言えます。(藤原摩耶)



杭と板材を使った護岸施設(南から)



粘土採掘坑(上空から)



粘土採掘坑(直径約2.8m)



出土した勝間田焼椀



## 百間川原尾島遺跡 岡山市中区原尾島

旭川の放水路である百間川では、改修工事に先立って昭和52年から発掘調査を実施してきましたが、今年度は原尾島の百間川橋上流左岸を延長220mにわたって調査を行ないました。

その結果、条尾にかかわる中世の溝や、竪穴住居・井戸・土壌などからなる弥生時代～古墳時代の集落、土堤や畦畔で仕切られた弥生時代の水田等を確認できました。このうち、洪水の土砂で覆われた弥生時代末の水田では、稲株の痕跡が田植えを思わせるように並んで見つっています。このほか、沢田の集落との間を北に流れる川に接して、杭やムシロで護岸を施した弥生時代前期の溜池状遺構や、縄文時代晩期にさかのぼるドングリの貯蔵穴など、注目すべき遺構が見つかりました。（亀山行雄）



溜池状遺構の底に敷かれたムシロ



ドングリを貯蔵した穴の断面

## 南方遺跡 岡山市北区南方

南方遺跡は、岡山市の中心部に位置し、弥生時代中期を中心とする集落遺跡として知られています。岡山法務総合庁舎新営に伴って、平成22年10月から発掘調査を実施しました。

調査の結果、江戸時代の溝や土壌、古墳時代前期の井戸や弥生時代の土壌などが発見されました。当地点は、岡山城下を描いた絵図「備前岡山地理家宅一枚図」（文久元年＝1861年）などによると侍町の一角に当たります。今回発見された溝は、絵図に描かれている水路とみられ、これによって絵図の町割りど調査した遺構の照合が可能になりました。また土壌の1つからは「三谷様」とヘラ書きされた電片が出土し、その位置が絵図の三谷家の位置と一致することもわかりました。（氏平昭則）



江戸時代の水路（北から）



「三谷様」とヘラ書きされた電片

## 津島遺跡活用事業

津島遺跡の普及と活用を積極的に進めるため、県総合グラウンド内の「津島やよい広場」と「遺跡&スポーツミュージアム」を中心に講座や体験教室、やよいまつり等を開催しました。

### ■津島遺跡文化財講座

津島遺跡についての理解を深め、その普及と活用を支援するボランティアの育成をめざす9回の講座を開催しました。



弥生土器の製作体験

	開催日	内容
第1回	5月21日（金）	講義：弥生時代の津島遺跡 実習：田植え体験
第2回	7月10日（土）	津島遺跡セミナーⅠ テーマ：弥生時代と津島遺跡
第3回	9月17日（金）	講義：弥生時代の石器 実習：磨製石包丁製作体験
第4回	10月15日（金）	講義：弥生時代の収穫 実習：福刈り・脱穀体験
第5回	11月19日（金）	講義：弥生土器の種類と変遷 実習：弥生土器製作体験
第6回	12月10日（金）	見学：百間川原尾島遺跡発掘調査現場
第7回	1月16日（日）	津島遺跡セミナーⅡ テーマ：弥生時代の生活
第8回	2月18日（金）	講義：津島遺跡見学説明のポイント 実習：津島遺跡見学説明
第9回	3月4日（金）	見学：岡山大学考古資料展示室

### ■津島遺跡セミナーⅡ

7月10日（土）開催の津島遺跡セミナーⅠ（所報49号所収）に続き、1月16日（日）にセミナーⅡを県立図書館で開催し、100名の皆様に御参加いただきました。講師には東京学芸大学特任教授の木下正史先生と北陸学院大学教授の小林正史先生をお招きしました。『弥生時代の生活』をテーマに、木下先生には「弥生時代の建築を探る－竪穴住居・高床倉庫・祭殿・楼閣－」、小林先生には「スス・コゲからみた津島遺跡の弥生深鍋による調理方法」と題して御講演していただきました。

### ■津島やよい体験教室

弥生時代のもの作りを体験し、埋蔵文化財を身近に感じていただく体験教室を小学生とその保護者を対象に開催しました。第1回の「分銅形土製品をつくる」は6月26日（土）、第2回の「弥生土器をつくる」は10月9日（土）に開催し、それぞれ15名と18名の皆様に御参加していただきました。



分銅形土製品の製作体験

### ■津島やよいまつり

11月13日（土）・14日（日）に開催しました。火おこし、イネの刈取り、糲すり、勾玉作り、分銅形土製品製作等の弥生体験、津島遺跡出土遺物の展示と解説、復元住居と建物等の解説を行い、2日間で930名の皆様にお越しいただきました。



「貫頭衣」を着て記念撮影

### ■津島遺跡ボランティア

昨年度の文化財講座を修了した方々の中から9名の方がボランティアに登録されています。今年度の活動は、津島遺跡の小学校見学の補助、津島やよい農園の整備、やよいまつりとセミナー等への参加でした。特にやよいまつりでは、事前準備から加わっていただき、一緒にまつりを盛り上げました。

## 企画展・企画展関連講座

今年度センターの展示室では計3回の企画展を実施しました。このうち2回目となる「吉備の横穴式石室」では岡山県内で調査された横穴式石室にスポットを当てた展示を開催しました。企画展では赤磐市八塚3号墳の須恵器、美作市穴ヶ途古墳出土の銀装円頭大刀や岡山市根岸古墳出土の玉類など様々な副葬品を展示しました。あわせて解説パネルも掲示し、吉備の横穴式石室の構造やその移り変わりについて紹介しました。

さらに、11月27日(土)には企画展に関連する研究・調査成果の報告会を実施しました。当日は50名の皆様に御参加をいただき、質疑応答や展示解説もあわせて大いに盛り上がりました。



企画展示の様子



企画展関連講座の様子

## 見学・職場体験学習等

今年度は28校1,617名の皆さんが、当センター施設や津島やよい広場の見学、発掘調査・整理作業などの職場体験にいられました。23年度もお待ちしています。



津島やよい広場の見学



学校種	目的	学校数	児童生徒数
小学校	津島遺跡見学	8校	387名
	センター見学	11校	1,065名
	計	18校	1,452名
中学校	職場体験	5校	12名
	連携授業	2校	131名
	計	7校	144名
高等学校	進路学習等	1校	11名
特別支援学校	出前授業	1校	10名
	合計	28校	1,617名



センター見学の様子



職場体験の様子(発掘調査)



職場体験の様子(土器洗い)

## 発掘調査現場の公開

平成22年度に開催した発掘調査現地説明会等の公開事業は次のとおりです。



金山屋敷遺跡



山津田遺跡



百間川原尾島遺跡



北溝手遺跡

遺跡名	場所	開催日	参加者数
金山屋敷遺跡	英田郡西粟倉村影石	5月24日・25日(月・火)	90名
山津田遺跡	総社市上林	6月3日・4日(木・金)	100名
北溝手遺跡	総社市北溝手	7月27日(火)	220名
及遺跡	勝田郡勝央町黒土	8月26日・27日(木・金)	70名
北溝手遺跡	総社市北溝手	9月4日(土)	70名
百間川原尾島遺跡	岡山市中区原尾島	11月21日(日)	150名
南方遺跡	岡山市北区南方	2月19日(土)	130名
百間川原尾島遺跡	岡山市中区原尾島	2月26日(土)	180名
及遺跡	勝田郡勝央町黒土	3月5日(土)	70名
合計			1,080名

## センター収蔵品紹介 vol.99 加茂政所遺跡出土の飛鳥瓦

先端に点珠をおく八弁の花弁が均等に配されている瓦で、通常「角端点珠」素弁八弁蓮華文軒丸瓦と言います。県下では加茂政所遺跡(岡山市)の他に津寺遺跡や中撫川遺跡(同市)から同様の瓦が出土し、これらの瓦を焼いた窯が総社市宿の末ノ奥窯跡であることが分かっています。なお、奈良県明日香村の奥山廃寺に葺かれた瓦に文様が酷似していますが、別の釜で作られているようです。



直径16cm、厚さ1.5cm

末ノ奥窯跡からは、この「角端点珠」瓦以外に、もう1種類の飛鳥瓦である素弁八弁蓮華文軒丸瓦が出土しています。この瓦は末ノ奥窯跡から180km離れた奈良県明日香村の豊浦寺に運ばれたことが判明しており、中央の初期寺院に葺かれた瓦が遠隔地から運ばれたことを示す事例になっています。豊浦寺は蘇我氏建立の尼寺であり、奥山廃寺は欽明紀十三(552)年十月条に蘇我大臣稲目が金銅釈迦仏を安置した「小墾田の家」との関係が推測されている寺です。これらの寺院との関係が瓦から明らかになった末ノ奥窯跡もまた、蘇我氏の影響の元に築かれたと考えられます。わずかに数点の瓦といえども、蘇我氏と吉備、ひいては畿内と吉備の関係を考える上で重要な遺物と言えます。(松尾佳子)

# 平成22年度各課事業一覧

## 〈試掘調査・確認調査・発掘調査〉

課	遺跡名(所在地)	調査原因	種別	遺跡の内容・成果	調査期間 調査面積
調査第一課	(勝田郡余義町)	一般国道53号上町川視距改良事業	試掘	6か所のトレンチを設定。遺構確認されず。	11.24～12.7 110㎡
	(新見市馬塚)	公共通常砂防事業(石垣谷川)	試掘	古墳石室の可能性のある石を調査。古墳ではないことを確認。	1.12 4㎡
	神明遺跡ほか (総社市福井・刑部・総社)	一般国道180号改築(総社・一宮バイパス)工事	試掘 確認	9か所のトレンチを設定。弥生時代の住居・柱穴・溝、中世の柱穴や包含層を確認。	2.1～2.24 54㎡
	(赤磐山西中)	単県河川改修工事 (一級河川一の部川)	確認	3か所のトレンチを設定。遺構・遺物確認されず。	6.9 24㎡
	奈良井遺跡・宮原遺跡 (浅口市金光町佐方)	一般国道2号改築工事(玉島等岡道路)及び一般県道南浦金光線単県地方特定道路整備事業(道路改築)	確認	10か所のトレンチを設定。縄文土器とサヌカイト片を埋土中に含む流路、古墳時代の柱穴・溝と包含層を確認。	7.22～8.5 59㎡
	八幡神社西遺跡 (赤磐市口古木)	一般県道可真上山陽線緊急地方道路整備事業	確認	2か所のトレンチを設定。遺構・遺物確認されず。	9.7～9.10 6㎡
	斎宮B遺跡 (赤磐市沼田)	ため池等整備事業(南池地区)	確認	6か所のトレンチを設定。トレンチの1つから埴輪片を検出、付近に古墳の存在を想定。	11.4～11.12 27㎡
	古山城跡 (和気郡和気町日笠上)	和気日笠デジタル中継放送局建設	全面	日笠頼房の居城。安土・桃山時代の山輪・掘立柱建物・炉を検出。備前焼、炭化種子等出土。	7.20～7.29 61㎡
史跡 鬼城山 (総社市奥坂)	城内の確認・整備・活用	確認	飛鳥時代の古代山城。水門関連の土手状遺構、掘立柱建物、被熱土壌を確認。	7.1～12.28 1,350㎡	
調査第二課	北溝手遺跡 (総社市北溝手)	一般県道服部停車場線道路改築	全面	弥生時代から近世に至る集落遺跡。弥生時代前期では県下最大級の竪穴住居を確認。	4.1～9.30 1.1～3.31 2,342㎡
	山津川遺跡 (総社市上林)	広域基幹河川改修事業 (二級河川前川)	全面	弥生～古墳時代の集落遺跡。古墳時代前半の竪穴住居を3軒確認。包含層中より特殊器台が出土した。	4.1～6.30 671㎡
	百間川原尾島遺跡 (岡山市中区原尾島)	旭川放水路改修	全面	弥生～古墳時代の集落跡。縄文時代の貯蔵穴、弥生～古墳時代の住居・井戸・土壇、稲株状痕跡を残す弥生時代の水田等を確認。	4.1～3.31 4,000㎡
調査第三課	(津山市小原)	都市計画道路大谷一宮線街路改築	試掘	4か所のトレンチを設定。遺構確認されず。	7.26 73㎡
	及遺跡ほか (勝田郡勝央町黒土)	一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	全面	鎌倉時代の粘土採掘坑群、弥生時代中期の護岸施設を検出。	4.1～3.31 5,400㎡
	西畑遺跡 (津山市下田邑)	一般県道西一宮中北上線道路改築	全面	平安時代の溝。奈良時代の谷地形の復元。弥生時代～鎌倉時代の土器出土。	1.1～2.28 740㎡
	金山屋敷遺跡 (英田郡西栗倉村影石)	中国横断自動車道姫路鳥取線(鳥取自動車道)建設	全面	江戸時代中期以降の製鉄遺跡。鉄滓を廃棄した場所と石垣を確認。	4.1～5.31 800㎡
	南方遺跡 (岡山市北区南方)	岡山法務総合庁舎新営	全面	弥生～江戸時代の集落遺跡。弥生～古墳時代の井戸や土壇、江戸時代後期の待屋敷に作る井戸や土壇・溝などを確認。	10.1～3.31 2,161㎡

青山城跡は市町村指導の発掘調査 調査主体は和気町教育委員会

## 〈報告書作成・刊行〉

課	報告書作成(遺跡名)	刊行報告書(遺跡名)
調査第一課	史跡 鬼城山	県報告233(八紘古墳群)
調査第二課	北溝手遺跡ほか、山津川遺跡	県報告230(山津川遺跡)、同231(田益田中遺跡)
調査第三課	美作国府跡、西畑遺跡、宇屋古墳ほか、金山屋敷遺跡	県報告228(美作国府跡・小田中遺跡・山北遺跡)、同229(二本木遺跡・小塚の谷古墳・宇屋遺跡・宇屋古墳・田尻遺跡)、同232(高岡遺跡2・金山屋敷遺跡)

## メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集・発行

### 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm

- 交通案内
  - ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
  - ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM8:30～PM5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。  
ただし、臨時に休館することがあります。

